

会 議 録

会議名 (審議会等名)		(仮称)新・産業振興ビジョン策定委員会				
事務局 (担当課)		産業政策課 電話042-769-8237(直通)				
開催日時		平成27年2月10日(火) 午前10時~12時				
開催場所		市立産業会館4階 国際商談室				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他					
	事務局	12人(産業政策課長、商業観光課長、他10人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1. 開会 2. 議題 (1) 第2回策定委員会の報告事項と参考資料の修正点 (2)(仮称)新・産業振興ビジョン検討 中間案(概要) (相模原市が目指す産業像、産業振興の基本的考え方) 3. その他 ・(仮称)新・産業振興ビジョン検討 中間報告 3月予定 ・第4回(仮称)新・産業振興ビジョン策定委員会 6月開催予定 ・第5回(仮称)新・産業振興ビジョン策定委員会 8月開催予定 4. 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開 会

事務局の進行により開会した。

2 議題（ は委員の発言、 は事務局の発言）

飯島委員長の進行により議事に入った。

（ 1 ）第 2 回策定委員会の報告事項と参考資料の修正点

事務局から、第 2 回策定委員会の報告事項である、人材確保・育成における課題、主な指摘に対する反映・対応、デザイン支援にかかる他都市施策事例についての説明を行い、参考資料の修正点の報告を行った。

（ 2 ）（ 仮称 ）新・産業振興ビジョン検討 中間案（ 概要 ）（ 相模原市が目指す産業像、産業振興の基本的考え方）

事務局から、（ 仮称 ）新・産業振興ビジョン検討 中間案（ 概要 ）について説明を行った。

基本方針の中では、工業、商業・サービス業の他にさらに共通の項目がある。産業横断的などという話がこれまでに何回も出ていたので、それを反映した形になっている。産業振興の方向性にも工業、商業・サービス業の他に、もう 1 つ横断的な視点を設け、6 次産業のことなどを盛り込んだ方がよいと思う。

産業振興には農業も観光も本来は入るが、別立ての計画になっているのはなぜか。

農業、観光、それぞれビジョン、計画がある。観光振興計画は改定をして平成 31 年までの個別計画として既に進行中である。農業については別途ビジョンを策定中であり、年度内にある程度内容が固まる。平成 27 年度の前半に、6 次産業化や商工連携などの内容について横串を刺し、今回の報告書を最終的にビジョンにする時に戦略的な施策などに位置付けをしていきたいと考えている。産業振興ビジョンは工業と商業・サービス業にある程度特化した形で進めているが、それに横串を刺すような形で他の分野についても考慮する予定である。

資料は、工業と商業・サービス業のみの項目出しとなっているが、横断的な産業を別項目として 1 つ柱として立てた方がいいのではないか。

目指す産業像で新たな価値と魅力と表現しているが、価値があってそれを魅力と感じる。価値と魅力は意味が近いと思うが、価値と魅力の部分にどのような思いが入っているのか。

価値というのは、工業に限っていうと、高付加価値化という意味合いがある。

成長産業を集積する、あるいは成長産業に市内の産業が新たに市場参入する際にイノベーション等を通して高付加価値につながっていく、といったことを意識した価値ということ。魅力については、価値から魅力につながるという考え方もあるが、特にブランド化ということで、基本的考え方に謳ってある。商業・サービス業については豊かな自然とか、色々な地域の資源との融合、有機的な結びつきというのが必要だろうというところで、市外あるいは国外からの誘客、人を呼び寄せるには価値というより都市のブランド化、魅力向上が不可欠ではないかという考えで、価値と魅力の使い分けをしている。

議論の中で、工業は成長産業、商業・サービス業はそうではないようにも受け取れる。

成長産業というと、実は STEP50 という産業集積促進方策を大きく見直し、今後、成長が見込まれる産業をリーディング産業と位置づけている。航空宇宙、環境、エネルギー、色々な産業にまたがるものとしてはロボットがあるが、これから先、非常に可能性が高く、需要が多くなってくるだろうという産業を成長産業ということでここでは使っている。

商業・サービス業の振興は、保護産業のようにも見えてしまうので、例えば今出てきている新サービス、高齢者に向けたサービスへ転換していくとか、色々なサービス業が生まれるヒントはそこにあると思うので、例えば商業・サービス業の革新とか、そういう言葉で成長産業の集積とバランスがとれるようにするともっといいかもしれない。

「地盤の強さ」というのは、地震のことを言っているのか、それとも技術力のことなのか。

東日本大震災の状況から、土地の地盤が強いということを示しているので、誤解されないよう表現を改める。

将来の商業、サービス、観光の魅力をどういう言葉で表現すれば響くのか。どうも魅力の創出という言葉がピンとこない。どこにでもあるような言葉のため、違う言い方ができないか。

資料の絵だが、1つの重なっている部分に価値や魅力、あるいは全て重なっている部分にこういった表現があるが、実際は重なっている部分が本当に価値、魅力なのかという疑問があり、成長産業の集積だけでも、既存産業でも独自の魅力、価値を創り上げることはできると思う。ただ、絵としては重なる部分というのは多様な交流、色々な主体が行き来する、単独ではなく色々なところが融合して新たなものを作るというイメージを示しているので、絵の作り方としてはこのような感じではないかと考えている。それから魅力の創出、確かに魅力というのは、どこでも使うような言葉だが、最初は「魅力とブランド力」と入れていた。相模原オリジナルとかオンリーというイメージの言葉が入ってくるとよいと思

う。

さがみはらのブランド、さがみはらブランドとつなげると、間にラブ(らブ)が入る。さがみはらラブな、さがみはらの中に愛がある、さがみは(らブ)ランドの創出というのはいかがか。

ニューヨークもアイ・ラブ・ニューヨークというキャンペーンによって、それまでは先進都市だから良いというだけの魅力しかなかったものを、色々なことを含めてニューヨークのライフスタイルの魅力などの発信にシフトして成功している。

大変良い中間案になっていると思う。ポイントは産業振興の基本的考え方の1番目「ものづくりからサービスの提供まで、業種の垣根を超えた仕組みの構築」というところにあると思う。ものづくりとサービスをバラバラにやっていたのでは新しい価値も生まれにくいし、産業も生まれにくいとっており、そこにポイントがある。今後はその点を深めていけばよいと思う。産業の集積と、サービス業の振興が一緒になり、価値が出て魅力が創出される。合体したところに価値が生じるし魅力が生じる絵にしないといけないのではないか。合体したところに魅力が出て、価値が創造され、企業や人がやってくるというふうになると思う。この広域交通基盤の充実というところで2つに分かれてしまっているのが違和感のもとになっているのではないかと感じる。逆に言うと、垣根を越えた仕組みとは何かというのがポイントである。それは色々なものがあるので、ぜひこのあとを読みみたい。

異業種交流のような内容を産業振興の基本的考え方の1で出しているのので、産業振興の方向性と方向性に基づく基本方針も、まず共通あるいは融合というのを上に持ってくる。共通か融合か横断的か、どの言葉がいいのかは検討をいただきたい。

本日ご指摘いただいた点について修正、あるいは検討したうえで、中間報告とさせていただきます。

6 その他

事務局から日程に関する事務連絡を行った。

- ・(仮称)新・産業振興ビジョン検討 中間報告 3月予定
- ・第4回(仮称)新・産業振興ビジョン策定委員会 6月開催予定
- ・第5回(仮称)新・産業振興ビジョン策定委員会 8月開催予定

(仮称)新・産業振興ビジョン策定委員会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学社会情報学部 教授	委員長	出席
2	上野 賢美	(株)共立代表取締役		欠席
3	浦上 裕史	(社)相模原市商店連合会 代表理事		出席
4	上山 雅子	公募委員		出席
5	佐藤 知正	東京大学 名誉教授	副委員長	出席
6	杉岡 芳樹	相模原商工会議所 会頭	代理出席	出席
7	奈良 哲弥	津久井商工会 商業部会長		出席
8	最住 悦子	公募委員		出席
9	若生 ひとみ	ルビーデザイン 代表		出席
10	渡邊 博樹	(株)日本政策金融公庫厚木支店 支店長		出席

(50音順 敬称略)